

どうし き 「道志の樹」

今年度、生徒会では「道志の樹」という活動を児童会・生徒会が連携して行える取り組みを行っていきたいと考えています。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、小学生・中学生の互いの交流の場がないのが現状です。そこで、3密を守りながら互いに連携して取り組める活動がないか考えさせていただきました。その中で今回の「道志の樹」という活動を小中の交流の場として提案させていただきます。

「道志の樹」活動内容

小学生・中学生が互いに相手の気持ちを考える取り組みとして、「道志の樹」という取り組みを行います。「道志の樹」とは、3つの意味を持っています。

ど：努力していたこと

う：嬉しかったこと

し：親切にされたこと

誰かが努力している姿・自分自身がされて嬉しかったこと・誰かに親切にしている姿などをサクラの形の紙に書き、その紙を多目的ホールの幹に張り、年度末には大きな感謝や喜びなどを伝える紙で大きなサクラの樹をつくりたいと考えています。

この「道志の樹」の取り組みを行うことで互いに相手の気持ちを考えて相手が嬉しいことや親切な行動を意識することができると思います。また、誰かが努力している姿を互いに褒め合うことで互いに努力しあえる学校をつくっていききたいと考えています。

具体的な活動方法

各学校で互いにさくら型の紙に「ど・う・し」に関することを書く時間を設定したり、誰もがいつでも書けるようにしたりするなど児童会・生徒会が工夫して活動を行い、「道志の樹」の幹にたくさんのさくらを張りたいと思います。さくらの幹については生徒会で現在作成しています。3月末にはこの「道志の樹」が満開になるように生徒会・児童会が中心となり活動を行っていきましょう。

